

# 地域づくり総務大臣表彰 優良事例集

平成20年3月

総務省自治行政局自治政策課

## 島根県海士町

### 【活動概要・効果】

#### ☆「島の未来は自ら築く」生き残るための覚悟と二つの戦略

○財政が悪化し、島の存続さえも危うい緊急事態に直面したが「島の未来は自ら築く」という信念のもと、①覚悟の単独町制を選択、②生き残りを掛けた「守り」と「攻め」の両面作戦を同時並行に実施という「海士町自立促進プラン」を策定し、徹底した行財政改革を行うとともに、新たな産業の創出を強力に推進している。

☆「守り」の戦略として職員の給与大幅カットは、「未来への先行投資」という意識へと変化し、職員のモチベーションは以前にも増して高くなった。地域住民からも自助努力の申し出があるなど、住民の共感も得ることができるとなった。

☆「覚悟」と「気概」「危機感」を住民と共有し、住民自らが「生きる術」を模索し、厳しくとも産業振興によって自立の道を歩もうという気運が芽生えてきた。

☆「攻め」の戦略として、「海」・「潮風」・「塩」の三つのキーワードを掲げ、産業を興し、人と雇用の場を増やし、島の活性化を図ることに力を入れている。平成16年からの3力年で78世帯、145人がターン者を中心に定住し、地域ブランドも創出されている。



情報発信・交流拠点施設 キンニャモニャセンター

#### 《人員確保での工夫・苦労》

平成10年より外部の発想と視点を取り入れた、商品開発研修生制度により、これまで全国から多くのターン者が本町に訪れています。この継続的な取組と交流事業等により情報の発信力と受入体制が徐々に整い、新産業に係る人員募集等においても多くの問い合わせや応募がありました。

第一次産業の再生を基本理念に置く、「ものづくり」の本質と自身のライフスタイルを本町に求めてくる人材は大きな力となって、地域資源を活かした起業化も始まっています。

#### 《活動資金確保での工夫・苦労》

「守り」の戦略である行財政改革は、未来への先行投資という意識が、行政はじめ町全体に広がりを見せ、財政面で大きな基盤となっています。しかし、産業振興を更に強力に推進するためには多額の資金確保が必要です。

特に島と本土を行き来する費用、例えば人材育成に掛かる経費などは経営に大きく影響し、離島の小規模企業が島外に販路を展開する際の大きな壁でもあります。このため本町は地域再生計画による支援措置を活用するほか、あらゆる関係機関に情報のアンテナをはり、マッチングする支援事業等の情報を得ることに努めています。

#### 【現場の声】

「地域づくり」の原点は、「島の未来は自分たちが切り拓こう」という職員一人ひとりの「高い志」と住民の理解と協力に尽きます。島の埋もれた資源に着目し、「島じゃ常識！サザエカレー」の商品化や「隠岐海士のいわがき・春香」など、生産者の発想と思いを形に首都圏をターゲットに挑んできました。そして、水産物の高付加価値化を図るべく、新凍結技術の導入や異業種からの農業参入による隠岐牛ブランド化等の、新産業に取り組んでいます。

このような産業振興に必要なのは、生産・流通・販売に精通する人材の育成・確保でしたが、商品開発研修生の制度や、行政の支援事業等をフル活用することで、課題解決を図ってきました。

島独自の環境資源の活用を、島内外の人々との交流とネットで根気よく取り組んできたことが、地域の活性化にも連鎖したと言えます。

～海士町役場地産地商課



いわがき共同作業施設

## 富山県 富山市

### 【活動概要・効果】

#### ☆住民、行政、民間団体が一丸となった通年観光のための取り組み

○全国的に有名になった「おわら風の盆」「曳山祭」等の伝統文化のみに安住することなく、より一層の魅力ある地域づくり、地域の活性化を図るため、おわらを通年観光化し、地域交流型、観光型イベントを継続的に開催するとともに、白壁、石畳、格子戸の伝統的街並み、景観の保全に取り組んでいる。

☆八尾の伝統的な街並みに現代アートを展示する「坂のまちアートinやつお」は、町民の文化意識を高め、まちの活性化と芸術文化の振興、伝統文化の継承に寄与している。

☆住民、行政、民間団体が協力した多彩なイベントが奏功し、「おわら風の盆」の時期の観光客数は毎年25万人程度で安定している一方、通年の入込数が2000年以降一気に増加している。さらに、伝統芸能の観光イベントは、地域住民の芸能技術向上、継承、後継者育成の場となっている。



おわら風の盆

#### 《人員確保での工夫・苦勞》

坂のまちアートもスタートから10年以上が経過し、町に定着してきていますが、もともと町の将来を憂えた少数の有志により行事が立上げられ、それら中核メンバーも固定化し、高齢化してきているのが現状です。

今後、おわらや曳山祭とともに真に八尾に根付いた行事とするためにも運営の組織的運営の強化に向けた新たな担い手の育成が課題となっています。

伝統文化の保存継承と地域の活力維持に向けて今後こうした問題への取り組みが一層重要になると思われれます。

#### 《活動資金確保での工夫・苦勞》

地元住民や事業者にとって八尾の伝統文化に対する愛着や保存継承への意識が高いことから、おわら風の盆、曳山祭、坂のまちアート等の実施にあたっては、行政や越中八尾観光協会からの支援に加え、地元事業者・店主等の協賛による部分も大きくなっています。

協賛については、会場となる地元商店街に加え、工業団地の企業等幅広い業種から募るとともに、近年は八尾町内のみならず、合併によるスケールメリットも生かして、市全域からも広く募り運営の一助としています。

#### 【現場の声】

「坂のまちアートinやつお」については、アートは美術館という固定観念を捨てて、町屋や通りといった生活空間を展覧会場とした美術展との斬新な発想で取組んでいるのですが、当初は地域の方にとっても初めての試みということもあり、会場を貸してもらうにも苦勞がありました。今日ではおわら風の盆、曳山祭に続く大きな文化イベントとして定着してきており、往時の賑わいを思い起こすことができる町の方からも評価いただくようになりました。

また、おわら風の盆前夜祭、風の盆ステージ、越中八尾冬浪漫等のおわらの通年観光化への取組みと併せて、あらたな賑わいづくりと街の活性化において一定の成果をあげてきていると感じられます。



伝統的景観づくり 夢あかり

## とらまる人形劇カーニバル実行委員会

香川県東かがわ市

### 【活動概要・効果】

#### ☆人形劇でのまちづくり

○とらまる人形劇カーニバルは、人形劇の楽しさを全国に紹介する、西日本では最大規模のイベントとして定着、イベント会場以外でも楽しめるようにと地元の企業や商店会などが協力し、地域ぐるみのイベントとして「人形劇のまち」をPRしている。

☆20年以上の人形劇のカーニバル開催により、人形劇は地域に根付き、平成19年度のイベントには約8000人が集まる大イベントとなっている。

☆また、人形劇場「とらまる座」では、年間200ステージ以上を上演し、入場者数は年間約3万人と人形劇場としては全国一の観客動員数を誇っており、関係3施設合計では平成18年度約8万人を動員するなど、「人形劇のまち」が着実に定着していることが伺える。



屋内だけでなく野外ステージでも公演

#### 《人員確保での工夫・苦労》

市民有志が主導する実行委員会により、企画から運営まで行っている。毎回、企画を多く取り入れたいが、その分スタッフが必要となる。

現在は、専門的な技術関係スタッフをプロ劇団に依頼する一方、実行委員会のメンバーを中心に市民ボランティアが各会場の受付、接客などにあたっている。

ゆとりあるスタッフワークではないので、市民の方イベントへの理解、協力を求める活動が重要と思っている。

#### 《活動資金確保での工夫・苦労》

現在の活動資金について、主な収入源は、市からの補助金他、他団体からの助成金、市内商店会、企業のガイドブックへの広告掲載などである。しかし、いつまでも市の補助金などに依存するわけにはいかないので、独自で財源を確保しようと、知恵を絞っている。具体的には、収入として大きなウエイトを占めるワッペン・チケット収入に前売り料金を設定し、確実な販売を目指している。

今後も入場料収入の増加のためには、宣伝活動を継続的・効果的に展開していくことは不可欠だと考えている。

#### 【現場の声】

地元の青年たちと人形劇団の熱意によって始まった「レクリエーションと人形劇のカーニバル」をきっかけに、「人形劇のまち」としての独自性にあふれたまちづくりが着実に進んでいる。

カーニバルでは、従来の全国からのプロ劇団の招致、地元アマチュアサークルの上演に加え、その年ごとに目玉となる新企画、上演を取り入れ、常に新鮮であるイベントを目指すとともに、子どもから、若者、お年寄りまで幅広い層が楽しめるような企画に取り組んでいる。（子ども向けの遊びの広場、人形劇の学生大会、大人向け人形劇の上演など）

また、今後、単発で終わらせず、継続的な事業であるということを前提に、長期的な展望を持つとともに、活動資金の確保、スタッフの確保は大きな課題と捉えている。

～とらまる人形劇カーニバル実行委員会  
会長 川北 文雄さん



市商工会館での人形劇公演

## 特定非営利活動法人 劇団ゆう

岩手県滝沢村

### 【活動概要・効果】

#### ☆世代を越えて創作の喜びと感動を体験できる劇団

○郷土に夢と誇りを持って生きる子供たちの育成及び住民参加型文化活動の地方発信を目的に結成。演劇を通じて地域の連携、異世代交流、青少年の健全育成に取り組む。「地域づくりネットワークもりおか」の事務局として、盛岡地方振興局管内の地域づくりのリーダーとしての役割を担っている。

☆平成3年の設立以来、「子どもたちに夢と感動を！」をモットーに、一貫して青少年の健全育成と芸術文化の振興に取り組んでおり、定期公演のほか、チャリティーミュージカル、過疎地域における「夢いっぱいコンサート」等を毎年開催し、県内外の住民に感動を与え続けている。

☆新聞等メディアへの登場回数も多く、「滝沢村」のPRの機会は非常に高く、団体が指定管理者を務める「滝沢ふるさと交流館」の利用者数も年間10万人に迫るなど、飛躍的に伸びており、地域の活性化につながっている。



青年隊ミュージカル「ピーターパン」沖縄公演

#### 《人員確保での工夫・苦労》

特徴ある人材育成として、より近い先輩が後輩を指導するピラミッド型指導システムである。これは全国各地で行っている行政との協働の事業でも実施しているが、参加者が気軽に体験できることもあり、底辺を広げるためには非常に良いシステムだと思っている。また、指導する立場の団員には、より高い技術を極めて貰うために、それぞれの分野で活躍するプロの方々のハイレベルレッスンを受ける機会を設けている。

#### 《活動資金確保での工夫・苦労》

より安定した活動を行うために賛助会員制度を設けているが、毎年年会費が落ち込んでいる。活動が飛躍的に広がりを見せているのと反比例して経営は「劇団火の車」状況になっており、公的助成金の活用や企業からの助成金に目を凝らしている。

#### 【現場の声】

世界公演による、日本の美しい心を世界の子供たちに発信する活動を通じて会得したことは、

- ① 直観力・洞察力・大局力・納得させる力・責任力を身につけるため論理と体験を究める。
- ② 目的を達成するために理念を実行する集中力・持続力を身につける。
- ③ 組織の意志を決定するにあたって、合議、または真理は逆の中にあることを考慮し、多様な意見を聞き衆知を集めるが、最後は理事長が決断し自分の退路を絶って実行に当たる。
- ④ 組織や経験から善し悪しの双方の反省点を明確に捉え、体験や知恵に活かした学び合う組織文化をつくる。
- ⑤ 論理を語るのではなく、相手の心に自分の真理を語りかけ納得してもらい協力者の環を広げる。
- ⑥ 全ては人の心と縁が紡いでいく活動である。

～特定非営利活動法人 劇団ゆう  
菊田 悌一さん



全国移動ミュージカル公演「福井公演・風のなかの賢治」

## 特定非営利活動法人 グラウンドワーク三島

静岡県三島市

### 【活動概要・効果】

#### ☆地域環境改善活動の推進

○三島市との協働事業の中で「街中がせせらぎ事業」に参画したことで、市民・企業・行政の協働の街づくりの大きな牽引力となる。水辺環境再生事業の実施や小中学校及び市民を対象とする環境教育活動を多数開催している。

☆三島市民に「協働による街づくり」を定着させ、自然環境及び景観に対する意識を向上させた。汚れていた松毛川などの自然環境を改善し、水生昆虫などが多数復活している。地域の環境整備事業に参画し、三島では市街地で25種類ものトンボを観測できるなど、自然環境豊かなまちづくりが住民の手によって定着している。



自然観察

#### 《人員確保での工夫・苦労》

当法人では、市民の多様な志向にあつた人材養成講座を開講しており、エコ・リバー・富士山湧水インストラクターを3年間で約200人養成し、環境教育の指導者として学校に派遣している。また、せせらぎシニア元気工房の開設により、環境コミュニティ・ビジネスに取り組む匠の集団を組織化して、里山再生やリサイクル教育の推進役の役割を担ってもらっている。やはり、やや高度で専門的な知識の連続的な習得機会の提供と活躍の場の創造が求められる。

#### 《活動資金確保での工夫・苦労》

当法人では、スタッフ会議で活動の概要と方向性を議論し、戦略的で長期的な事業計画を策定している。また、それらをどのような手段・資金確保によって実現するのかのメニューを考え、多様な助成団体への申請、行政への政策提言による地域住民や企業の支援を前提としたパートナーシップ型補助金の確保、NPOの特性を評価しての委託事業の受託、環境コミュニティ・ビジネスへの取り組みによる自主財源の創設など、あの手この手の資金確保に毎年努力している。

#### 【現場の声】

グラウンドワーク三島は、環境悪化が進んだ「水の都・三島」の水辺自然環境の再生を目的に、多様な環境改善活動に取り組み、現在では、水辺の再生や学校ビオトープの建設、住民参加の公園づくり、歴史的井戸の保全活動など40箇所もの実践地が市内に点在している。工夫点は、とかくバラバラに行動してきた、市民・NPO・行政・企業の有機的な関係づくりであり、その調整役、仲介役としてのグラウンドワーク三島の組織基盤の強化と総合的・戦略的なマネジメントの育成である。また、「右手にスコップ・左手に缶ビール」を合言葉にした、「現場主義・実績重視」の創造的で楽しい活動形態が、魅力的・発展的な市民活動の継続の秘訣であると考えている。

～特定非営利活動法人 グラウンドワーク三島  
理事長 緒明 實さん



作業風景

## 滋賀県近江八幡市

### 【活動概要・効果】

#### ☆生涯過ごしたいと感じるまちづくり

○景観に対する取り組みにより、「近江八幡の水郷」が景観法に基づく重要文化的景観の全国第1号として選定を受けるとともに、「近江八幡市景観農業振興地域整備計画」の策定やゾーンごとの「風景計画」を施行するなど、この地で生涯を過ごしたいと感じるまちをめざし、100年先のまちの風景づくりに取り組んでいる。

☆町並み保存や景観形成に関する住民組織は30を越え、各地域で定期的な除草作業等地域に密着した地道な活動が活発であり、地域を守る活動が住民主導で行われている。

☆景観を文化財として保全・育成する取り組みは、地域住民の財産となり、その場に住み続けたいと思う市民の郷土愛を醸成している。また、伝統的な町並みは映画やテレビのロケーションの舞台にも多用され、観光客がたくさん訪れ、地域の活性化にも大きく寄与している。昭和40年代には年間5万人程度だった観光客数は、現在では延べ約300万人近くまで増加している。



修景された八幡堀

#### 《人員確保での工夫・苦労》

NPOをはじめとする多くのまちづくり団体と行政間の中間的な団体でもあるハートランド推進財団によって「八幡塾」という学習会が開催されています。多種多様な分野の講師を招き、まちづくりの本質的論議を継続的に行うことで、同塾への参加者の中からまちづくりのリーダーが育成されています。

#### 《活動資金確保での工夫・苦労》

公共がすべきものは公共が実施するのが原則であり責務ですが、地域住民も自らが愛する地域のために資金提供をしています。さらに、住民は資金だけでなく、水郷地帯周辺ほか各地域において地道な清掃作業やイベント開催などで汗や知恵を出しており、まさに住民主体のまちづくりが実践されています。

#### 【現場の声】

まちづくりを進めていくには、その地域固有の自然や歴史文化を資源として、将来のあるべき姿のために今何をしていくべきかを絶えず考える必要があります。本市における八幡堀や町並みといった歴史的景観の修景保存、農業の営みとともに形作られた水郷地帯の保全もこれらの考え方を基本に、官民それぞれが、時には一緒になって事業を進めてきました。目先の経済性、利便性、効率性を考えがちな時代にあって、様々な事業企画の段階においてこのような考えを忘れずに取り組むことは容易ではありません。しかし、全市域で風景づくりを進めていくことは、美しく風格のあるまちを形成するだけでなく、まちの文化を継承していくことにつながるのです。

～近江八幡市役所協働政策部  
地域政策課



水郷めぐり

## 表町がんぎ劇場

新潟県長岡市

### 【活動概要・効果】

#### ☆雪国特有建築様式「雁木」特徴的な地域景観を活かすまちづくり

○地域固有の資源であり、雪国特有の建築様式である「雁木」に着目し、栃尾表町区の住民と大学生がデザインチームを編成。地域の歴史や風土、風俗など、住民とコミュニケーションを深めながらモチーフを決定し、雁木の計画づくりを行っている。

☆「雁木」が地域に定着し、地域住民による自発的な雁木の作成、保存が促進され、表町地区において調和の取れた美しい街並みが作り出されるようになった。

☆さらに、周辺の街でも雁木が注目され、広い地域での景観の一体性が生まれている。観光資源としても見直されるようになり、街を周遊しながら雁木を楽しむ住民主催のイベント「雁木あいぼ」を開催するに至っている。これにより、住民同士の交流が深まり、さらには、まちづくりに対する住民の意識向上につながっている。



雁木デザインコンペティション

#### 《人員確保での工夫・苦労》

性格の違う（多様性を持った）機関（本活動の場合、地域・大学・行政）が協働し、継続的な活動を行うためには、各機関が主体的に関わることが唯一の方法であると考えています。この「協働」プロセスを展開していく中で、相互に協力し合い、有機的な役割分担で活動を行うと、中核的人員は重要ではないように感じています。

ただし、それぞれの機関において、活動の参加について容認（後押し）をしてくれる環境づくりは重要であると考えています。

#### 《活動資金確保での工夫・苦労》

「正当な評価による報道」と「権威ある賞の受賞」。この2点の実現は活動資金の獲得にあたり大きなアドバンテージとなります。継続的な資金確保のためには、投資経費にプレミアムを持たせなければならず、地方面においてその実現性を鑑みると行政機関が最も可能性が高いものと考えます。

また資金繰りの安定のために、身の丈にあった活動ボリュームを維持し、できることを役割分担しながらやるという「ワーキングシェア」の理念は不可欠です。

表町の取り組みにおいては、活動に関わるすべての人の手のひら面積の和を活動ヴォリューム（建築面積）としてとらえ、それに見合うだけの資金を調達することとしています。

#### 【現場の声】

平成9年度の活動開始から10余年が経過しているが、一貫していることは、最も根本的な要素である「活動を楽しむこと、行うこと」について検討し、それぞれの機関が相互協力の精神を持ち、主体的に関わることでのみ継続的な活動が可能となることを確認していることです。

また、アカウンタビリティの徹底により、活動のあらゆる場面を公開し、情報提供を行っています。このことにより、活動のステップ毎に報道機関より記事としてPRされ、その記事によりプレイヤーのモチベーションがあがり、活動の大義が理解されるというルーティンが形成されています。

～長岡市栃尾支所建設課



雁木を題材にした小学校の総合学習

## みやのかわ商店街振興組合

埼玉県秩父市

### 【活動概要・効果】

#### ☆地域資源を活用したソフト事業の展開と多彩な交流施設の整備

○秩父市の中心商店街としてふさわしい街づくりを目指し、組合を中心にナイトバザールをはじめとした各種イベントや環境整備の実施のほか、高齢化社会・買い物弱者のために出張商店街や買い物代行、地域の元気な高齢者が援助を必要とする高齢者をボランティアで支える事業の実施などを行っている。

☆商店街の活性化に関する研究活動の中で、秩父夜祭りをヒントにソフト面の活性化策として、ナイトバザールを昭和62年から実施。20年間で233回開催し、地域に定着するとともに、全国の商店街との交流も生まれている。

☆高齢者施設に商店街自体が出張してお店を開く「楽々屋」は、平成18年6月の開始から、市内10カ所以上の施設で約120回開催。さらに、一人暮らしの高齢者などの買物代行「御用聞き」は、当商店街に限らず秩父郡市内の店どこでも受け付け、高齢者福祉の増進に貢献している。

☆元気な高齢者が援助の必要な高齢者等をサポートする「ボランティアバンクおたすけ隊」には、20代～70代の幅広い年齢層100人が登録している。

#### 《人員確保での工夫・苦労》

20年以上イベントやまちづくりに取り組んできて、人手不足だと感じたことはほとんどありませんでした。最初から一握りの人間が街の人達に協力を依頼しながらやって来たという経験が、頑張っただけでいさえすれば「いざとなれば、街の多くの人達が必ず協力をしてくれる」という信頼を私たちに教えてくれた様に思います。無理やり協力させるというようなことをせず、自分たちがやっている姿を見せることによって、その関係が出来てくると思います。まずは、自分のやりたい事を自分が中心となってやっていく「やらせる」ではなくて「やりたい」にしていくことが重要なのではないのでしょうか。

#### 《活動資金確保での工夫・苦労》

資金面については、苦労させられっぱなしだと思います。当初はまだ、今よりも資金も集め易かった気がします。今の商店街の多くは、大型店の進出等の問題でかなり弱っていると思います。でも私たちの商店街は頑張ってきたからこそ何とか今の姿を保っている。決して楽ではありませんが空き店舗等もほとんど無く維持できていると思います。【金が無ければ、汗をかくしかない】という信念もありますが、行政と多くの商店主との協働で乗り切ってきたと思います。これが、今日、福祉事業や商店街の拠点づくりを始め、街の資産を大事にしながらまちづくりに取り組める原動力になっていると思います。

#### 【現場の声】

私達が行ってきた、みやのかわナイトバザールを20年以上継続してこられた大きな理由は2つ有ると思います。その一つはイベントは手段だということにいち早く気がついたことだと思います。ナイトバザールを続けることによって市民が味方になってくれる、また、行政の方も徐々に評価をし協力してくれるようになってくれる、その事によって私達の目的でもあるまちづくりができるようになっていく、その事を知ったことが大きかったと思います。もう一つは原則、同じ事をやらなかった事です。20年以上もナイトバザールを続けてきて毎回毎回、その中身を変えながらやってきた。つまりナイトバザールのすべてが一回目のつもりで企画を練ってきた事、その事によってマンネリを防ぎ、消費者に飽きさせることをさせなかった事が良かったと思います。その結果アイデアを出す、企画を練るという訓練を自然と覚え、それをまちづくりに生かしてきたことが今のみやのかわ商店街を成長させてきた大きな要素だと思います。

～みやのかわ商店街振興組合  
理事長 島田 憲一さん



出張商店街  
「楽々屋」

## 熊本県山鹿市

### 【活動概要・効果】

#### ☆芝居小屋と町並み伝統文化を伝える都市

〇市の文化振興と活性化の核となる八千代座の復興をはじめ、まち歩きツアーを行うボランティアガイドの結成、山鹿灯籠浪漫・百華百彩の開催において、歴史や伝統文化を大事にしながら、大学との連携等、時流に応じた新たな取り組みを積極的に実践し、それらを融合させた地域づくりを行っている。

☆八千代座復興の他、保存されている約70棟の伝統的建物のうち、44棟が現在までに修景され、歴史的まちなみの保存がなお続けられている。

☆地域づくりにおいては、市内の大学、地元商店街、地域住民が主体的に斬新なイベントの企画を展開している。

☆八千代座周辺商店街では、空き地空き店舗への新規出店についても、市の積極的支援により、平成9年度からの10年間で延べ50軒の出店があり、また、廃業した酒蔵を駄菓子屋として再生し、地元の子どもたちを集めるなど、観光地としての取り組みだけでなく、生活感のある生きたまちなみづくりに取り組んでいる。



新酒祭り

#### 《人員確保での工夫・苦労》

①八千代座でのイベント実施には、多くの人材が必要となる。山鹿市等主催イベントでは、受付や館内の案内業務をボランティアに頼っている（八千代座ボランティアといい、現在約20名が会員登録している）。今後は、音響照明や舞台製作などを手伝えるボランティアを養成する方向である。

②山鹿灯籠浪漫・百華百彩は、毎年灯りの数が増えるに従い、マンパワーも必要となっている。そこで、当初は観光協会が中心となって実施してきたが、地元商店街や崇城大学、地域住民、行政などで組織する実行委員会を立ち上げ、より多くの皆様が祭りに参加できるように取り組んでいる。

③まちなみ整備をより効果的に進めるためには、沿道住民と行政の間で、公平な立場と専門的な技術を有する組織をつくる必要がある。

#### 【現場の声】

①八千代座は、平成の大修理後多くの観光客が見学に訪れ、また、坂東玉三郎舞踏公演や松竹大歌舞伎をはじめとした催しにも使用されている。一方、地元では踊りの発表会や小学生の演劇発表会など、市民団体の利用も活発である。「観光客等を対象とした見学」と「貸し館としての利用」の2つの利用形態があり、すみわけが長年の課題であった。そのため、使用料条例の見直しや八千代座の見学ルート（舞台裏見学）などを新たに設けた。

②米米惣門ツアーでは、案内の質を高める協議を定期的に行い、反応が良かった話題や団体の特性に応じた案内など、お互いの経験を話し合い、効果的な案内を常に探っている。

③まちなみ整備の課題の一つに改修レベル（改修内容の統一感）の差があげられる。豊前街道沿道の修景について、統一的な方向性の意識が沿道住民に薄いため、官民協働で指針を策定し、専門家を含む第三者機関等を中心に運用できる仕組みづくりが必要である。

～山鹿市役所企画課

#### 《活動資金確保での工夫・苦労》

①八千代座でのイベント実施では、自主事業等でできるだけ資金を確保するために協賛金を多くの企業や団体から募っている。

②山鹿灯籠浪漫・百華百彩は、灯りの数が増え続けることにより、ろうそく代など灯りに関連した経費が莫大となり予算を圧迫している。熊本県の支援等により資金確保に努めている。



八千代座

## 福岡県北九州市

### 【活動概要・効果】

#### ☆門司港レトロめぐり海峡めぐり推進事業

○歴史的建造物保存活用や変化に富んだウォーターフロント、美しい自然環境を生かした都市型観光拠点の形成を目指して策定した「門司港レトロめぐり海峡めぐり推進計画」が、旧自治省による「ふるさとづくり特別対策事業」の指定を受けたことを契機に、ハード・ソフト両面にわたる整備を官民一体となって進めている。

☆レトロプロムナード、門司港駅前のレトロ広場、門司港レトロ展望室、夜間景観創出のための「ナイトファンタジー」などハード面での景観整備は、民間投資の活性化、さらには、観光振興への住民参加の促進にも大きな効果を発揮している。平成6年に25万人だった観光客数は、グランドオープンした平成7年には107万人、平成18年には214万人と増加し、九州でも有数の観光地に成長した。

☆平成7年度に設立された官民一体まちづくり団体「門司港レトロ倶楽部」は観光素材の発掘・育成、情報発信など地域の観光振興に対し、大きな役割を果たしている。



レトロフェスタ

#### 《人員確保での工夫・苦労》

平成7年に門司港レトロがグランドオープンしたことを契機に、門司港レトロ地区の観光振興と地域の活性化を目的とした「門司港レトロ倶楽部」が、地元まちづくり団体及び企業、行政の間で設立された。現在、レトロ地区のイベント年間総数250件のほとんどに「門司港レトロ倶楽部」が主催、あるいは支援等を行っている。門司港レトロ倶楽部は、「おもてなしの心があふれたより良質な観光地」を目指すうえで大きな役割を果たしていることから、市としては一層連携し、一体となった取り組みを積極的に行っていきたい。

#### 《活動資金確保での工夫・苦労》

北九州市は、歴史的建造物の保存・活用と衰退の一途をたどっていた門司港の活性化を図るため、昭和62年に旧自治省が創設した「ふるさとづくり特別対策事業」に「門司港レトロめぐり海峡めぐり推進事業」としていち早く名乗りを上げ、昭和63年に事業採択された。財源対策上、タイミングよく発表された国の制度をうまく活用することができたことが大きく、その後も「中心市街地再活性化事業」や「地域活力創出事業」などの制度を引き続き活用できたことが、継続的な活動につながっている。

#### 【現場の声】

門司港レトロ事業における第1期事業（昭和63年～平成6年）では、歴史的建造物の修復やレトロプロムナードの整備等の社会資本の整備を中心に行った。その結果、観光客の飛躍的増加や知名度の向上、観光マインドの芽生えなどの成果があったものの、滞在時間が短く通過型であることや飲食物販施設の不足、駐車場トイレの不足などの課題も明らかとなった。そこで、第2期事業（平成7年～）においては、第1期事業の成果と課題を踏まえ、滞在型観光拠点の整備を進めており、特に、民間活力の導入に力点を置いた事業展開を行っている。

今後は、門司港レトロ・関門海峡のブランド化の推進、民間活力の更なる導入、地域との連携によるまちづくりと観光マインドの育成などに取り組んでいく。

～北九州市門司港レトロ室  
企画振興課企画係長 元村 和己さん



旧門司三井倶楽部

## 茨城県日立市

### 【活動概要・効果】

#### ☆中小企業の積極的な事業活動をサポート～財団法人日立地区産業支援センターの取り組み～

○地域のものづくり産業の構造的な課題を克服し、再び活力ある産業集積地へと転換するため、新製品・新技術の開発、新規受注先の開拓、企業間ネットワークの構築、ものづくりの担い手の育成など、地域企業の積極的な事業展開をサポートしている。

☆東京への営業拠点の設置、東京での展示会の開催、受注コーディネーターの設置等により、地元以外からの受注件数・金額が増加している。「ものづくり改善塾」など、企業ニーズに対応した現場職員のスキルアップを図るための実践的な講座を開催。受講者が勤務する企業において生産性の向上などの効果が発現している。



ひたちテクノフェア in 東京

#### 《人員確保での工夫・苦労》

地域中小企業の経営上・技術上の課題解決を支援するには、経営者や技術者とのFace to Faceの対応を行うものづくりに関する豊富な経験と知識を持つ職員の確保と育成が最大課題である。

センター設立から10年目を迎えるに当たり、今後の10年を見据えた中期経営計画を構想中である。その中では職員に求められる資質が議論されており、人的コミュニケーション能力・フットワーク力・地域貢献意欲、深い郷土愛を持つ人材を発掘、育成していきたい。

#### 《活動資金確保での工夫・苦労》

財団設立が日立市単独の出捐金で行われたこと、支援の対象となる中小企業の半数以上が日立市に立地していることから、自主事業費の80～90%は日立市からの交付金により賄われている。しかし、それだけでは十分ではなく、国や県などの公募型の事業に応募し、地域産業振興のための事業を推進している。

設立当初は知名度も実績もなく、全国規模の公募型の資金獲得はハードルが高かった。総務大臣表彰はその点でも効果があり、大変感謝している。

#### 【現場の声】

センターの設立当初は、「明日食べる米がない」とまで言う経営者が多く、意識改革の事業等の推進については批判や抵抗が少なかつた。しかし、経営者の世代交代に好機を見出し、後継者育成塾や他地域企業との交流事業などで刺激を与え続けるなど、そんなやり取りから徐々にセンターの認知度が上がり、利用者や相談件数が増加していった。

「地域中小企業の懐に飛び込み、経営者とともに課題解決に汗を流す。」という基本スタンスを言葉で表現するのは簡単であるが、ベースには信頼関係が存在することが重要であり、関係構築には時間を要する。

今思えば設立から5年間は、経営者の意識改革の推進と、センター職員と地域中小企業との信頼関係構築の時期であったように思われる。

～財団法人日立地区産業支援センター  
コーディネーター 日向 晃一さん



技術者養成研修

べっぴんはとうたけがわらくらぶ

## 別府八湯竹瓦倶楽部

大分県別府市

### 【活動概要・効果】

#### ☆町あるきや文化活動を基本とするまちづくり

○自ら行動する市民グループとして設立し、竹瓦界隈の活動を中心にしながら市内全域に拡大していき、町あるきを通じた地域の再発見や文化活動を基本とするまちづくり活動を展開しながら、別府八湯全域にまちづくりの核となる人材の育成に努めている。

☆「竹瓦かいわい路地裏散歩」等の先駆的な町あるきの活動は、別府八湯全体に広がりを見せ、11団体13コースによる「別府八湯ウォーク」として定期的開催され、地域住民自らがボランティアガイドとなり「住んでいるまち」を案内するスタイルが定着し、大手旅行会社のツアー企画や観光情報誌等でも取り上げられるなど人気を博している。八湯ウォークガイドは全体で現在100名を越え、それぞれが各地域のリーダーとして地域を盛り上げる活動をしており、町あるきから生まれた様々な地域独自の文化活動が活発に展開されている。さらに地域住民をはじめ学生等のまちづくりの核となる人材育成にも積極的に取り組んでいる。このように自立して継続できる町あるきの仕組みは大変に注目されていて、全国から視察研修が相次いでいる。



竹瓦かいわい路地裏散歩

#### 《人員確保での工夫・苦労》

一時は高齢者が多く活気をなくしていた別府温泉のシンボル「市営竹瓦温泉地区」を盛り上げようと、平成10年に年齢・職業等が違う近所仲間4名が集まって、お金をかけずに何か楽しいことをやろうと思い立ったのが活動のきっかけである。これまでの様々なまちづくり活動に加えて最近特に人づくりに力を入れており、日本初の女性バスガイド村上アヤメさん（97歳）や流しの演歌手コンビはっちゃん・ぶんちゃん（82歳・77歳）等の再登板・さらに地元の元気なママさんや子ども達からなる「湯のまちママさんガイド」や「湯のまちキッズガイド」等のすばらしい人材が育ってきており、その活躍ぶりが全国的に注目されている。

#### 《活動資金確保での工夫・苦労》

「楽しくなければ続かない」という言葉をまちづくりの合い言葉にして、別府八湯竹瓦倶楽部の活動は決して無理をしない身の丈にあった所からスタートを行った。そのためにも予算がかからず、かつ地域の人々が楽しんで元気になるようなことを取捨選択しながら事業を行った。実施にあたっては地域特有の資源である共同温泉等を活用するために、多くの人たちにいろいろなアイデアを出し合って協議しながら活動を発展させていった。

#### 【現場の声】

竹瓦倶楽部のまちづくりコンセプトは、地域住民が主体となって竹瓦温泉周辺の歴史や風情ある街並みの再発見さらに温泉を活用して、地域の人々がいろいろな人と交流しながら心身ともに元気になってもらうことである。10年前位から「歩くシンポジウム」として開催されている「竹瓦かいわい路地裏散歩」を、現在も月4回ペースで昼夜定期的開催を続けており、これまでの参加者は約2万人を超えていて県内外の多くの参加者にまちづくりの楽しさや感動を与えている。この地道で楽しいまちづくり活動の拡大により、地元の人は県内外の参加者との交流の機会が増加して住民が地域に対して愛着心や誇りを持つようになってきており、清掃活動やまち案内さらに花いっぱい運動等を通して地域住民同士の「心のきずな」が強くなってきている。

～別府八湯竹瓦倶楽部さん



夜の路地裏散歩 流しのはっちゃん・ぶんちゃん

## NPO法人 新町川を守る会

徳島県徳島市

### 【活動概要・効果】

#### ☆「一人の百歩より百人の一步を」

○地元新町川の清掃活動・環境美化活動を中心として、「無料周遊船の運航」、「吉野川フェスティバル」、「川からサンタがやってくる」など、水辺を活かした様々なイベントを継続して実施するとともに、県内外のNPO等との交流・連携による活動も繰り広げている。

☆有志数人で始まった取り組みは、現在、法人会員を合わせると280名までに拡大している。清掃活動は企業等の研修や学校の課外活動に取り入れられるなど、地道な活動が周辺地域の美化意識の向上に寄与している。

☆水辺を活かした様々なイベントは、地域に人々の賑わいをもたらしており、特に周遊船の乗船客においては、その4割が県外客であり観光客の誘致など、地域の経済活性化に寄与している。



ひょうたん島遊覧船（かもめと遊覧）

#### 《人員確保での工夫・苦勞》

ボランティア活動は地味な活動の連続で、何ら社会的補償の無い立場である。

本会結成後18年が過ぎ会員も高齢化してきているが「一人の百歩より百人の一步」という考えで活動している。また、「できる時に、できる人が、できる事を」をスローガンとして活動して会員に強制することなく活動を実施している。

活動時は担当者が美味しい食べ物を用意し、人と人が心と心で結びつく心地よさを感じるような事業を展開するとともに、早朝から清掃や花壇の植栽を行うなど、人に認められ、感謝され、人間の持つ「認知の欲求」を感じられるような事業を展開している。

#### 《活動資金確保での工夫・苦勞》

川の清掃を行う参加者数が多くなると、清掃に使用する船を借り上げなくてはならないため、参加者に費用を負担してもらって清掃を行っている。また、吉野川フェスティバル等のイベントで飲食物を販売をするなど様々な方法で資金を確保している。

水辺でのイベントの実施や、様々な賞の受賞によりマスコミに取り上げてもらう機会が増えたことから、市民の認知度が向上し、企業や市民からの寄付が集まりやすくなった。

#### 【現場の声】

会の設立当初は、ベッドやバイクなど驚くようなゴミが川に捨てられており、清掃に使用している船はすぐに満杯になっていた。また、活動当初は住民から奇異な目で見られる事もあり、なにか特殊な団体として捉えられていたが、継続して活動することで市民に認識され、理解を得られるようになった。

徳島市が隔週末に行っていた「ひょうたん島遊覧船試乗会」を毎日運航したいと考え、市からの委託事業として依頼されるようになった。無料で行っているため運航経費の捻出に苦勞しているが、遊覧船の乗船が無償だからこそ住民や企業、行政の理解、協力が得られた。

これまで、会の活動を継続して続けてきた事によって市民から認知され、今ではまちづくりの一役を担うまでになっている。川がきれいになり、まちが活気づくのがわかることや、住民の方々の感謝の言葉が私たちボランティアの喜びであり、作業の配当であると考えている。

～特定非営利活動法人 新町川を守る会  
中村 英雄さん



吉野川フェスティバル

## 群馬県上野村

### 【活動概要・効果】

#### ☆地域自然を生かした地域活性化と過疎対策

○村民を海外に派遣する海外視察派遣事業、その経験を生かした村内全域花いっぱい運動、（株）上野振興公社による村営宿泊施設と観光施設の管理運営、過疎対策としてのUターン者の積極的な受け入れ、森林フォーラムという都市部の人への勉強会を行っている。

☆（株）上野振興公社は、村営国民宿舎や公園施設事業の運営を行い、各事業に対して自意識と機動性を導入。村の地場産業促進にも取り組み、就業の場として確立し、地域の活性化や地域のリーダー、人づくりに取り組んでいる。村営事業では成しえなかった企業のセンスを取り入れ、就業の場の確立とUターンの受け皿として黒字経営を続けている。

☆Uターン対策事業では、住宅整備、就業の場の確保、生活環境の整備など受け入れ体制を整えている。就業の場の確保のために実施している木工事業の振興、特産品の開発・製造販売事業の振興、観光事業の振興等は産業全体の活性化にもつながっている。年々Uターン者数は増加し、農林業・木工業、振興公社への就業者も増加し、新たな村の後継者が増加している。



Uターンフェアでの様子

#### 《人員確保での工夫・苦労》

Uターンのみならず、上野村のような農山村にとって、地域を活性化させるために中核となる人材を確保することは重要である。村の豊かな自然、歴史や文化、産業、長所や短所など、現在の村の全体像を把握してもらった上で、「自分たちは何に取り組まねばならないのか」という共通目的意識を持つまでには、相当な時間と労力を要する。様々な人たちがふれあい、話し合う場を提供し、『同郷者』という意識を育てることが大切で、短期間で結果を得ようという考えでは、良い結果は得られない。

#### 【現場の声】

各種事業とも現在まで充実させてくるには、相当な困難があった。中でも、過疎対策として力を注いできたUターン対策事業においては、定住者の確保に向けて居住環境の整備や就業の場の確保等が重要課題であった。居住環境については、村単独予算だけでなく、地域活性化事業債等で財源を確保し、効率的に住宅整備を行ってきた。また、地域活性化や人づくりを目的に、株式会社上野振興公社を一つの就業の場として、村内の各種団体の協力を得ながら、充実させてきた。

これらによって、子育て世代が徐々に増え始め、村内は活気付いてきているが、将来にわたっての人材確保や財政面を考慮すると、効率的な事業展開を行う必要がある。

～上野村事業部企画財政課

#### 《活動資金確保での工夫・苦労》

豊かな森林資源を生かした木工業の振興を図るため、加工施設や展示販売施設を整備した。また、各種事業を展開する上で様々な補助金や助成金等を有効活用しており、それ以外は、限られた財源を効率よく生かしながら活動をしている。

全ての事業に共通して言えることではないが、資金確保が大変な事業ほど、携わる人々の危機感が増し、様々なアイデアが出てくることで、事業活動がしっかり根付く場合もある。

## 新城歌舞伎実行委員会

愛知県新城市

### 【活動概要・効果】

#### ☆歌舞伎のまち「しんしろ」

○市内8団体が一堂に会して開催する新城歌舞伎公演を毎年継続して開催。小学生を対象とし出演者を公募して後継者育成を積極的に行い、市内外からの公演依頼に積極的に参加し、市民レベルで歌舞伎のまち「新城市」をアピールしている。

☆伝統芸能・文化の保存はもとより、市内の団体が時に助け合い、時に競い合って技術を磨き、芸能技術の向上にも努めている。また、活動は、地区・学区の枠を超えて行われ、地域交流の活性化、子供たちの人間形成にも役立っている。

☆定期公演は、昭和63年から毎年開催し、昨年で20回目を迎えた。毎年、市内外から約700人の来場者があり、地域伝統芸能として定着している。



新城歌舞伎

### 【現場の声】

現在、市内に8団体あるが、各団体がそれぞれ特徴を持って活動している。各団体が活動しやすいように、月に一度の実行委員会を開催して横の連携を取っている。その実行委員会の会合で、各団体の今後の思いや活動を報告していただき、皆で協議しながら前向きに進むこと。それから一つの団体に公演依頼があると、その内容を実行委員会にかけて全団体がバックアップして公演を成功させている。

～新城歌舞伎実行委員会  
加藤 芳夫さん

### 《人員確保での工夫・苦労》

日頃活動していく中で、各団体より3～5名程度のメンバーを選出していただき、そのメンバーが中核となって活動している。活動面ではメンバー全員が昼間は仕事を持っているので、いつも活動する時間は夜になってしまうこと。苦労は夜遅くまで作業に没頭してしまうこと。

### 《活動資金確保での工夫・苦労》

継続的に活動するには、ある程度の資金が無いと活動できないため、各団体より会費を徴収したり、他市町村からの公演依頼があると、ボランティアとして活動する一方で、公演に必要な経費を最小限に抑え、節約しながら資金を確保している。



練習風景

## 宮城県加美町

### 【活動概要・効果】

#### ☆地域資源を活用したソフト事業の展開と多彩な交流施設の整備

○多様な地域資源を活用し、都市と農村の交流の拡大を図ろうとファミリー農園の開園や都市と農村の交流型イベント「やぐらいの里まつり」を開催。都市部の中学生の体験学習受入なども実施し、グリーン・ツーリズムを推進している。多様化するニーズに応える施設として、「体験する」「遊ぶ」「食べる」などができる交流施設を整備している。

☆グリーンツーリズムの推進により、地元での都市と農村の交流事業を実施するだけでなく、都市部でのイベントへも参加するなど地域間交流が活発になり、また、高齢者が持つ経験や技術を活用できる場の創出にも貢献している。

☆温泉、宿泊、体験施設、リゾート施設等の整備により、子どもから大人まで幅広い観光客が訪れる町となった。地域資源を活用したイベントとの相乗効果により観光客入込数が年々増加し、平成7年度の約47万人から平成18年度は約94万人となっている。交流施設整備は雇用の場も創出し、経済的な活性化にも寄与している。



やぐらい土産センター

#### 《人員確保での工夫・苦労》

私たちの直売所は15年が経過し、組合員がかなり高齢化し、60歳以上の組合員が80%程度ですが現役で頑張っています。これは50歳以下の組合員にとってはとても良い刺激になります。

組合の役員は50歳～60歳代で8名（理事6名、監事2名）。

選出方法は地区を16に分け、各地区から1名を代表に役員を選考委員になっていただいている。

地区委員は最低2年間、地区のリーダーとして毎月の会議に出席し、地区を理解してもらっています。

#### 《活動資金確保での工夫・苦労》

組合の運営費として、組合員の売上から販売手数料を徴収している。手数料は、1ヶ月分の売上額から野菜や山菜類であれば10%、加工品や手芸品、工芸品などは14%を差し引き、残りの売上金額を翌月の10日に組合員へ支払う。売上金額から差し引く事により、確実に組合費を徴収できる。

直売所での売り子なども当番制で実施しており、その日当や役員報酬などは組合員の口座に振り込むようにしている。

#### 【現場の声】

町の農林産物直売所を「さんちゃん会」という任意団体で利用してきたが、法人化の必要性を感じ組合へ提案。“みんなで「経営」する”という意識が農産物の生産にも反映され、売上も右肩上がりとなった。

販売価格は、1袋1包み100円以下にはせず、買いやすい価格にこだわっている。

野菜類の陳列は、原則としてコンテナ1つが組合員の持分。また、四季それぞれの旬の物は特設コーナーを設置。特に、山の幸（キノコや山菜）はコーナーを常設している。

旬の物を安く売る。何が一番売れるか組合員が認識すること。宣伝広告を兼ねて仙台圏に目を向けて出張販売も行っている。

売れ残りの処理は、組合員一人一人が自己責任において行い、お客様に迷惑をかけた際は倍返しでお詫びをする。品物には、生産者の情報が表示され、品物を購入したお客様からの苦情は施設事務局、組合員で情報を共有し、同じ失敗をしないように注意している。

※色々な事を組合員に広報紙や掲示板に書いてお知らせをすることがとても大切！！

～農事組合法人 やぐらい土産センター  
さんちゃん会さん



収穫祭

## 七尾マリンシティ推進協議会

石川県七尾市

### 【活動概要・効果】

#### ☆港を中心としたまちづくり

○港を中心とした「マリンシティ七尾」の実現を目指し、地域産業の総合的な改善発達を図り、地域経済の振興に寄与することを目的に、モンレージャズフェスティバル、七尾まちづくりアワード、冬の光物語事業（イルミネーション事業）等の活動を行っている。

☆まちづくりアワードでは、七尾市内のまちづくり団体・個人を表彰支援、毎年20団体前後の応募があり、元気がでる活動を讃えることにより地域再生の一助を担っている。また、ジャズフェスティバルは、1989年に第1回が開催され、今年度までに19回連続で開催し、ジャズの祭典としては日本一となり、地域にも定着している。

☆港再生・地域活性化の核としてオープンした「能登食祭市場」は、地域住民だけでなくたくさんの観光客で賑わっている。今後は、七尾港から七尾駅まで700メートルのシンボルロードと港が連動するまちなかの賑わいづくりにも取り組む。



初代グランプリ・一本杉町（花嫁のれん）

### 【現場の声】

継続的な活動については、PDCAサイクル（plan→do→check→act）を繰り返し、実施しています。大きくは出来ませんが、（身の丈にあった）継続的な改善を行うことにより、活動に広がりが出てくると考えます。人の広がり、最も大きい活動の改善だとも考えます。既存の考えを払拭し、新しいものにチャレンジすることとも考えます。

～七尾マリンシティ推進協議会  
今井 富夫さん

### 《人員確保での工夫・苦労》

「地域は人なり」。古今東西の鉄則に従い、未来を拓く拠点としていくべき「人づくり」は欠かせないと考えます。地域が元気であるためには、地域に住む人が元気でなければなりません。

### 《活動資金確保での工夫・苦労》

地域経済活性化を図るための「七尾市まちづくり基金」に寄付いただけるよう、多くの企業や団体・個人に呼びかけ、ご支援を戴いています。この資金が循環することにより、本協議会の活動資金が確保されています。現在、平成19年度全国都市再生モデル調査を受託している等、補助金も活用しています。



幸せのティアラの下で！

## 山梨県富士河口湖町

### 【活動概要・効果】

#### ☆五感に訴える観光地づくり

〇町をまるごと博物館とする「フィールドミュージアム構想」を立ち上げるとともに、自然環境を活かし、人間の五感（視・聴・嗅・味・触）に訴える観光地づくりを進めるために「五感文化構想」を掲げ、体験型を主体にした施設整備を進め、富士桜ミツバツツジまつりなどの様々なイベントも展開している。また、外国人観光客の来訪促進に力を入れている。

☆五感に対応した観光・文化・体験施設を整備し、各種イベントを織り交ぜながら、国内のみならず、国際観光地として発展している。外国人観光客は平成15年は約10万人だったものが、平成18年には、約17万人に増加している。また、冬場の観光客数増加を図るため、「冬花火・湖上の舞」（冬の花火大会）や「ウィンターフェスティバル」等冬季イベントを催行し、通年型観光地を目指している。



朝焼けの富士山とラベンダー（大石公園）

### 【現場の声】

観光を基幹産業とする町として、一年を通じて多くの観光客にお訪ねいただき、ご満足いただけるように、観光の基盤である自然環境の保全に留意しながら、観光振興に必要とされる施策を積極的に展開してきました。

前例にない新しい施策を実行するときには、行政の所管の縦割りや前例主義、費用の不足、法令等との整合など克服すべき障壁がある場合がありますが、必要な施策の実現のために八方に手を尽くすという熱意をもちながら実現を図ってきました。

～富士河口湖町企画課企画調整官

### 《人員確保での工夫・苦労》

フィールドミュージアム構想を進めるためには、一人でも多くの地域住民の参画が欠かせません。このため、美術館やステラシアターの運営ボランティアの登録、ネイチャーガイドの養成など、地域住民の方々がお持ちの関心や得意分野に応じて参画できるような機会づくりを心がけてきました。

### 《活動資金確保での工夫・苦労》

様々な施設の整備やイベントの実施においては、活用可能な補助金等を極力適用するよう努めることはもちろんですが、ランニングコストを意識しながら効率的な運営を心がけるとともに、収益をできるだけ運営に還元して少しでも独立採算に近づけるよう、経営感覚を重視した施策展開を行ってきました。



河口湖冬花火

## 岐阜県高山市

### 【活動概要・効果】

#### ☆市民と行政が一体となって進めるアメニティタウンづくり

○大規模な施設を中心とした市街地整備ではなく、市の持つ歴史ある街並みや市内中心部を流れる「宮川」などの地域資源にさらに磨きをかけ、市民はもとより観光客の目を楽しませるため、市内に点在し都市景観のポイントとなる「まちかど」の修景事業を重点的にを行い、少ないコストで、効果的な町並み整備を長期にわたって行っている。

☆伝統文化を残す町並みづくりと共に、将来に向けて継続的なバリアフリー事業を実施し、ユニバーサルデザインに配慮したハード整備だけでなく、学習資料や事業者向けの冊子配付などによるバリアフリーの考え方の普及・啓発にも努めている。年間観光客数は昭和58年の約180万人から、平成19年には約430万人と飛躍的に増加している。さらに国際観光都市としての「おもてなしの心」を基本としたサービス提供にも取り組み、外国人観光客は約13万人（平成19年）と年々増加している。

☆高山市では、行政先導型ではなく、常に市民からの働きかけや意見に耳を傾けて、市民と共にまちづくりを行うことにより、誰にもやさしいまちづくりへの取り組みをより効果的・継続的に実施している。



整備された大雄寺周辺  
(まちかど整備事業)

### 【現場の声】

「まち」の中で分散的に整備した「まちかど」を継続・維持してゆく上で、付近に住む住民の協力はなくてはならない重要な要素の一つである。整備した施設の清掃や植栽の手入れなど、自宅の庭先感覚で管理をしていただけるように、施工時には整備の目的の理解を図り、できる限り地域住民の意見を取り入れた整備を心がけている。

まちかど整備や宮川環境整備など、分散拠点的に景観を豊かにしてきたことによって、地域住民を含めた市民全体の景観に対する意識の向上に、大きく貢献できていると思われる。

～高山市役所基盤整備部都市整備課  
公園住宅グループ

### 《人員確保での工夫・苦労》

昭和41年に「上三之町町並保存会」が住民主体で組織され、住民主導の形で町並保全が進められていた。市では昭和47年に「高山市市街地景観保存条例」を制定してバックアップ体制を整え、今日まで町並保存活動の拡大を図りながら、16団体の保存会を組織するまでになっている。

まちかど整備事業などの景観行政を進めるにあたり、コアとなる景観意識の高い住民からの発信は重要であり、さらなる保存区域の拡大と市民の景観意識を高めることに努めている。

### 《活動資金確保での工夫・苦労》

まちかど整備事業、宮川環境整備事業については、市の総合計画に位置付け、その時点で該当する国や県の補助金を充当しながら進めてきた。平成14年から行なっている横丁整備事業では、当初単独事業で行っていたが、平成17年からは「まちづくり交付金」の補助金対象事業として進めている。

高山市では景観法による景観計画を平成19年から施行し、全市域において資質の高い景観を創造しているところであるが、今後のハード整備については、新しく始まる「歴史的環境整備事業」の一環として、引き続き整備を進めていきたい。



整備された江名子川の河川敷  
(まちかど整備事業)

## 丸池の里わくわく村

東京都三鷹市

### 【活動概要・効果】

#### ☆市民自らが創造した自然あふれる公園での活動

○自らワークショップによるプランづくりを行った「新川丸池公園」の運営・管理・イベント開催などを自主的に行い、地域の自然環境保全・再生、主に子ども達を対象にした自然体験事業、近隣の小学校との協力などを行っている。

☆毎月2回の清掃、梅林の管理を継続して行うとともに、地域のまつりや公園の豊かな自然環境を活かした地域学習、環境教育の場としても活用され、様々な活動が地域住民により自立的に行われ、地域のつながりが強化されている。子供たちを対象とした様々なイベントは、核家族化により希薄となった地域の大人と子どものつながりを再生している。

☆近隣小学校の総合学習には、講師派遣、現地見学などで協力している。また、公園内に水田を整備し、地域の原風景を再現するとともに、近隣小学生とともに作業を行うことで、子供たちに水田作業体験の場を提供している。



公園内での水田作業体験

#### 《人員確保での工夫・苦労》

自分達がつくり上げた公園という自負と愛着はあるものの、中核となる人材が高齢化し、その人数も十分とはいえません。しかし、継続的に近隣の小学校・PTA、中学校、住民協議会、町会・自治会、三鷹市、(株)まちづくり三鷹などの理解と協力をいただいております。先行きは期待できます。年間計画に基づき一つひとつ着実に活動するなかで、無理なく中心になる人材を集め、育てていく方向を旨としています。

#### 《活動資金確保での工夫・苦労》

活動資金については、わくわくまつりなどの売り上げもあり、比較的順調に確保できています。しかし、年々活動規模が拡大するなかで、新たな財源を見つける努力が必要と感じています。目標の設定、作業の段取り、備品の調達、実際の活動など、全て自主的に行なっており、その他に必要な公園の清掃用品などについては市から提供を受け、その他の援助については(株)まちづくり三鷹より支援を受けています。

#### 【現場の声】

早朝清掃は毎月第2・第4土曜日、その他のイベントは随時ですが、平均すると月1～2回、上記の清掃活動以外のイベントを行っています。清掃は、悪天候による中止以外はイベントと重なる場合も行っており、意思疎通、情報交換の場としても重要な役割を果たしています。

運営に関する決定は幹事会でを行っています。幹事会は定例と臨時があり、年間平均月2回程度開催されています。

公園設計のワークショップから始まった12年に及ぶ活動ですが、一貫して地域を重視し、こどもと高齢者に配慮した活動を心がけています。

また、自然体による運営、活動を楽しむ村民の姿勢、リーダーの率先垂範などは伝統的な活動スタイルとして受け継がれています。

～丸池の里わくわく村  
海老沢 国利さん



地域学習・環境学習の場「丸池ツアー」

## 特定非営利活動法人 かさおか島づくり海社

岡山県笠岡市

### 【活動概要・効果】

#### ☆島のことは島民が自ら考え、自ら解決する

○「特定非営利活動法人かさおか島づくり海社」が、島の産物を使ったお弁当「しまべん」の開発、空き家対策事業、通所介護事業所の運営、特産品販売所の開設などを行い、海援隊（行政）との協働により、地域の課題を住民が主体的に解決できるよう活動している。

☆「しまべん」の開発により、メディアで取り上げられる回数が増え、全国的にも知名度を持つ特産品となり、笠岡諸島のイメージアップにつながっている。空き家対策事業は、直接的な人口増加策にとどまらず、島にとけ込み、島に必要な人材に定住してもらえるようにし、高齢化により後継者不足に悩む離島での継続的な事業展開を目指している。（平成19年9月現在、19世帯43名が移住。）

☆各事業においては、行政組織である「海援隊」と市民との協働により課題に取り組んでおり、お互いの信頼のもと、さらに連携を強めている。



アンテナショップゆめポート

#### 《人員確保での工夫・苦労》

限られた人口の中で、事業を行う際の資格を持っている人材を捜すのに苦労している。特に介護保険事業。現在も常勤職員を募集中。

一方で、島の空き家対策事業で移住者を募集しているが、問い合わせも多く、地元で必要とする人材を選考できる。例えば、「しまべん」では作り手の確保が課題であった頃、寿司職人の移住希望者があり、移住者の職の確保と地元の事業がうまくマッチングした例である。

#### 《活動資金確保での工夫・苦労》

現在は、市の委託事業や補助金、介護保険事業による収入が多い。市の補助金や委託料はいつ打ち切られるかかもしれず、独自財源の確保が課題となっている。

そこで、陸側にアンテナショップを平成19年9月にオープンしているが、いまだ独自財源を確保するまでには至っていない。観光開発や特産品開発も手がけているが、成果を上げるにはもう少し時間がかかりそうである。

#### 【現場の声】

仕事の片手間にやっていたのでは間に合わないし、続かない。そこで、活動に専属の職員を作ることを目標とし、一昨年NPO法人人格を取得、市の委託事業や介護保険事業などを行うことで人件費を確保した。来年度は、企画・運営部門にもう1名職員を確保予定。職員は島内の住民で確保し、雇用の場ともなっている。

しかしながら、高齢化率が50%を超える地域の中で、事業の担い手確保に苦労している。また、7つの有人島がまとまって活動するための意志決定や協議のための会議についても、島という地理的な特殊性から時間と経費がかかっている。

～特定非営利活動法人かさおか島づくり海社  
鳴本 浩二さん



島の大運動会

## 今井町町並み保存会

奈良県橿原市

### 【活動概要・効果】

#### ☆歴史を活かすまちづくり

○全国の町並み保存のリーダー的存在としての役割を果たし、広く情報発信を行い町並みを保存するという住民総意の高い意識レベルをもとに町並み保存、文化財保護に取り組んでいる。

☆行政が実施する町並み保存事業に関して、「住民の生活面」や「観光地化ではなく静かな住宅地」としての方向を確認するとともに、修理・修景に伴う住民間の民法上の問題の介入を行い、事業が推進するように協力している。

☆また、今井町にある9件の重要文化財と3件の県指定文化財について、年に一度一般公開を行う「今井町町並み散歩」や、地区内の町家をギャラリーやコンサート会場として活用することにより、新たな活用を推進している。



町並み散歩 ギャラリー

### 【現場の声】

平成5年に重要伝統的建造物群保存地区の選定を受け、平成15年には全国町並みゼミを開催しました。重要文化財の公開と今井の紹介を目的とした今井町並み散歩も今年で13回目を迎えます。文化部・更生部・広報部それぞれの部会の活動がはっきり見えてきた現在、総括的にまとめていく事務局が独立して動ければと思います。

～今井町町並み保存会  
会長 西川 禎俊さん

### 《人員確保での工夫・苦労》

地元の会員を中心にボランティアを含めると当会に携わる人員は多数になります。人数が多ければ、見解の相違も生じてきます。当保存会を立ち上げたときの熱意を知る人が関わっておられる間に、少しでもその想いを受け止め、次の世代までつなげられるようにしたいです。

### 《活動資金確保での工夫・苦労》

活動資金は市からの補助金に負うところが大きいのですが、金銭的な独立を視野に入れ、一部事業については有料化する等の工夫をしています。



「六斎市」  
昔ながらの市を再現し大和の物産を販売

## ほべつ銀河鉄道の里づくり委員会

北海道むかわ町

### 【活動概要・効果】

#### ☆住民参加による旧駅舎・公園・花壇の整備

○旧国鉄富内駅舎及び構内、鉄道用品の整備と管理、親水公園及び花壇「涙ぐむ眼」の植栽、草刈り等の管理、富内農作業準備休憩施設の管理、見学者の対応を継続的に行っており、地区内の若手グループと連携を図りながら活動の推進にあっている

☆廃線した路線と駅舎を産業遺産として保存し、地域の宝とする取り組みを実施している。映画という新たな資源の可能性も生まれつつあり、限られたメンバーで地域を育てていくためのコミュニティづくりを進めている。

☆宮沢賢治設計花壇「涙ぐむ眼」は地区のシンボリック的存在になり、子供からお年寄りまで、福祉施設の園生など、地域住民総出による花壇植栽作業は地域の風物詩となり、地域住民の一体化が図られている。

☆世代を越えた幅広い地域住民が参加することにより、住民一人一人に活動目的や理念が認識されており、地域住民の精神的なつながりの強さや深さが浸透し、住民に地域づくりの原点が根付いている。



花壇「涙ぐむ眼」

### 《人員確保での工夫・苦労》

地区住民全員が委員会の会員であるが、新たな住民が増えない中で高齢化によって会員も年々減少している。発足当初“若手”とされたメンバーも高齢化の域に達してきており、世代交代が必要不可欠な中で問題を解決する方策は見つからない。限られたメンバーで地域を育てていくためには、これまでの実績を活かして、内外のネットワークによるコミュニティづくりを一層進める必要がある。

### 《活動資金確保での工夫・苦労》

住民から集める会費や行政からの公園管理の委託費などで花壇の維持管理やイベント開催などを具体的な事業として行っている。平成13年には富内線の廃線15周年と同時に21世紀最初の年であったことから「よみがえれ！汽笛」と題した1日だけのSL復活募金キャンペーンを実施し、2001円以上の募金者にテレホンカードを配付するなどにより資金確保に努めた。

### 【現場の声】

過疎化や高齢化の中で町が寂れることに対する危機感が特に強い富内地区においてS61の鉄道の廃線は絶望感と恐怖感すら感じさせた。その中で、当時の若い住民を中心に最後の汽車を見送るフェスティバルを自主的に開いたことが今につながる地区づくりの発端となった。それまで自主的な集まりだった組織を学校や自治会、その他の各種団体などを入れた「銀河の里づくり委員会」として改組することにより現在に至る活動の基本ともなっている。住民が独自に策定した最初の構想は観光振興の色合いが濃いものであったが議論を重ねた結果、豊かな暮らしを基本とする生活環境全体の改善をめざす施策・事業を推進している。様々な住民が運営に関わる委員会形式にすることにより地区住民が暮らし方の基本となる精神を共有することができている。

～ほべつ銀河鉄道の里づくり委員会  
会長 加藤 勉さん



花壇植栽風景

## 重伝建を考える会

広島県呉市

### 【活動概要・効果】

#### ☆「ちょっと感じのいい町」づくり

○地区内の各種団体と連携した清掃美化活動や、会の女性部を中心に玄関先や格子窓を花で飾る「すだれに竹の一輪挿し」活動、住民一人一人が地区を訪れる方々に道案内や簡単な名所の説明ができるよう「町民みなガイド」を目標に地域の歴史勉強会やボランティアガイドの育成などの活動を行っている。

☆「すだれに竹の一輪挿し」活動は、四季折々の生花を一年中飾り、景観美化向上を推進しているだけでなく、取り組みに賛同し一輪挿しを飾る家屋は日増しに増えており、地域ぐるみの活動として定着している。

☆ボランティアガイドも来訪者との交流や先進地視察を継続して行っており、地域に根ざした活動として定着し、観光客増加につながり、活性化が図られている。



玄関先を飾る「すだれに竹の一輪挿し」活動

#### 《人員確保での工夫・苦労》

会員の高齢化が進み、若い世代の人たちも地域の消防団やPTA等の活動がそれぞれに忙しく、なかなか新規入会が難しい中で、「すだれに竹の一輪挿し」活動、理事会への参画、先進地視察研修等において女性の積極的な参加が見られる。これからは女性が中核となり、町づくりを進めていくのではないかとこの予感がある。地域と生活に密着し、かつ来訪者へ気配りができる「ちょっと感じのいい町」づくりという当会の活動には女性は欠かせない存在となっている。

#### 《活動資金確保での工夫・苦労》

会報「重伝建だより」の発行や地域の「歴史勉強会」また「地域美化活動」等は資金的な問題はないが、アニバーサリー・イベント等では大きな資金を必要とするので、当会単独ではなく地区の自治会、女性会、老人会等との共催で、各組織が少しずつ資金を出し合ってきた。このことは、資金の面だけではなく、参加人員の広がりをもたらし、住民の参加意識の高揚にも繋がっている。

#### 【現場の声】

年間の活動や特別なイベントをするにあたり、一般会員と役員との間の意識のズレを指摘されることがあるが、「重伝建だより」という会報を年間5回程度発行し、事業目的を周知するように努めている。また、島外会員（約160人）は、事業や活動に参加しにくいので、島外会員たちも参加できる活動を模索している。また、会員の高齢化にどう対処していくかも今後の課題である。しかし、軒下の「すだれに竹の一輪挿し」活動や「町民みなガイド」運動による、来訪者に対するもてなしの心が深化している点と、それらの活動を通してわが町に対する誇りも島内外会員ともに深まっているように感じられる。

～重伝建を考える会

会長 木村 元雄さん



「ボランティアガイド」活動

## 島マス記念塾

沖縄県沖縄市

### 【活動概要・効果】

#### ☆次代のまちづくりを担う人材の育成

○「地域を知り、地域を愛し、地域を誇れる」若い人材の創出を目的とし、まちづくりの実践及び提言を行っている。塾のOB・OG集団である島マス記念塾塾友会も、市内の各種イベントや企画部門等に参画し、まちづくりに関して様々な意見や提言を行っており、記念塾の側面的支援を行っている。

☆沖縄市または周辺地域をモチーフとした社会福祉、文化、歴史等多岐にわたる分野を毎月2回の講義で学ぶとともに、地域の課題をテーマとしたディベートを行うことで、地域について考えるだけでなく自己啓発にも取り組むなど、人材育成と地域活性化の検討を効果的に行っている。予算面、運営面も民間組織が自主的に行うなど、住民自らが地域の人材育成に積極的に取り組んでいる。



第3回ディベート研究発表大会

#### 《人員確保での工夫・苦労》

第10期の頃から受講希望者数は伸び悩み傾向にあった。それに対して、塾運営について多角的視点から検討を行った。例えば、すべての卒塾生を対象にアンケート調査を実施した。これらの結果を踏まえ、当初は市民（職場含む）を対象とした募集の範囲を若干名「特別枠」として近隣市町村に広げた。これは塾名に冠する故・島マスの福祉理念と活動範囲を基礎にしており、更には「他地域からの視点」を組み入れることにより、塾生達の議論の活発化とともに、当市の再認識を図ることを目的とした。以降、塾の質的向上とともに受講希望者も安定してきた。

#### 《活動資金確保での工夫・苦労》

当塾は多彩な人材を輩出し社会的評価も高いが「島マス記念塾後援会」の存在もその財政的基盤を支えているといえる。しかしながら、活動資金面での課題としては設置主体からの予算措置、すなわち社協からの持ち出し分の確保である。

近年の経済不況は等しく福祉分野にも吹き荒れており、社協会費や寄付、共同募金などの落ち込みにより、社協の財源確保は容易ではない。「地域づくりは人づくり」といわれるが、行政に対しては厳しい財政状況のなか引き続き支援をお願いしたい。

#### 【現場の声】

塾を継続的に運営していくためには、何はななくとも財政面における安定的な確保が必要不可欠である。よって、建塾当初よりその確保に心血を注いだ。当塾の財源は、①受講料、②設置主体（沖縄市社会福祉協議会）からの予算措置、③共同募金会からの配分金、④行政（沖縄市）からの補助金で賄われている。市からの財政支援は建塾当初から塾の運営を支えてきた。しかし、近年の財政難の影響で、年々減少化傾向にある。それに伴い、当塾では講師謝礼金はじめとする運営費の節減に努めるとともに当塾と並行して組織化した「島マス記念塾後援会」により、当初抱えていた「入・卒塾パーティー」や「フォローアップ事業」などを委託し、財政面における支援を得ることができた。

～島マス記念塾 名嘉 隆一さん



第2回ディベート研究発表大会

## 保土ヶ谷宿四〇〇倶楽部

神奈川県横浜市

### 【活動概要・効果】

#### ☆歴史を活かしたまちづくり

○歴史を活かしたまちづくりをモットーに、幅広い市民活動を展開しながら、多くの方への保土ヶ谷の歴史性をPRしています。歴史を活かしたまちづくりのプランの策定や、歴史が漂う公園の整備提案など、行政と連携・協働した活動を展開しています。

☆子どもや地域を対象にした歴史を活かしたまちづくり活動は、保土ヶ谷区のみならず、旧東海道沿いの地域やまちづくり団体との交流を積極的に行い、旧東海道沿いのまちづくり団体のネットワーク構築を先駆的に取り組むなど、広域的なまちづくりを展開しています。

☆平成18年度には、旧東海道の趣きを感じられる空間（松並木・一里塚の再創造）整備を地域住民、行政が協働で実施しました。



街道ウォークガイド

#### 《人員確保での工夫・苦労》

時代や社会情勢の変化に伴い、より活発な活動を行うためには、魅力ある人材が必要です。歴史に関連したイベントや勉強会等を頻繁に開催することで、歴史に興味のある方や初めて市民活動に参加する方など、新たな仲間を増やしてきました。また、東海道沿線の歴史をテーマに活動している団体等とも交流を図ることで互いにより刺激を受け、会員のモチベーションを維持しています。

#### 《活動資金確保での工夫・苦労》

行政機関などの各種活動助成金制度の活用や地元企業からの協賛金により活動資金を確保しています。まちづくりの活動は活動資金も大切ですが、それ以上に活動するメンバーや地域の方々が、自分の住むまちを良くしたい等の「まちに対する思い」が最も重要だと思います。

### 【現場の声】

歴史を活かしたまちづくりをキーワードに当該倶楽部が昭和62年8月に設立されました。保土ヶ谷宿場まつりへの協力や、保土ヶ谷の歴史講習会、ウォークイベント開催、行政との協働による歴史スポット整備などを通じて、多くの皆さまへ保土ヶ谷の歴史性をPRしています。継続的な活動を行う秘訣としては、各メンバーによって活動に費やせる時間や労力が違う中で、無理をせず都合の良い時に活動してもらうことです。そして何よりもメンバー各々が楽しみながら活動することが一番大切だと思っています。

～保土ヶ谷宿四〇〇倶楽部  
村田 啓輔さん



復元した松並木・一里塚

## 大隅の國やっちく松山藩

鹿児島県志布志市

### 【活動概要・効果】

#### ☆地域の若者たちによる地域おこし

○地域に眠る歴史を活用し、若者が独自のアレンジをしている「秋の陣まつり」の開催や各種イベントへの参加のほか、毎月、定例企画会を開催し、「誰もが住みたくなるまちづくり」とは何かをメインテーマに掲げ、あらゆる分野の検討・協議を行い、新しい分野への活動の展開を図っている。

☆「秋の陣まつり」は平成元年から年々内容を充実させながら継続的に開催され、平成18年は5万人もの観光客が訪れるなど、地域イベントの核となっている。まつりには、中高生もボランティアで参加するなど、地域の若者達の知恵と汗による力ともてなしの心によって地域を盛り上げている。

☆継続的な活動により、志布志市松山町は「やっちく」の愛称で知名度が向上している。特産品開発、PR活動、イベント等に、地域全体が「やっちく」に誇りをもって、住民が一体となった地域活性化が図られている。



国際青少年音楽祭（餅つき体験）

#### 《人員確保での工夫・苦労》

我々の活動は、「手づくり」にこだわることによって、構成する異業種9団体それぞれに属する様々な人材が、登用、活用されていくことが基本となっています。

また、活動によって培った「もてなしの心」は、祭りや交流で訪れる人だけでなく、少しでもボランティアで携わってくれた人材の一人一人を大切に、その人材の活躍の場を提供し、中核となる人材として育成していきます。

また、適時な世代交代により、新しいリーダーが新しい人材を引き込み、それらの新しい人材を、前の世代が全面的にバックアップしていくという体制をとっています。

#### 《活動資金確保での工夫・苦労》

活動は、行政との協働を原則としております。

毎月行う定例企画会議において、地域活性化への協議を行い、行政へ提言することにより、行政で予算化し、やっちく松山藩は地域づくりの「行動隊」として実践しています。

また、不足する場合は企業等の補助金や、市を通じて地域活性化センター等の補助金を活用したりします。

#### 【現場の声】

我々が続けてきたのは、「秋の陣まつり」という祭りを誇りに思うこと、また、なくてはならないと危機感を持ち続け、心を一つに新しい風を取り入れるために世代交代が4年ごとに出来たからだと思います。また、民間と行政が一体となってボランティアとして取り組むことで、やっちく松山藩ならではの活動を創り上げられたと感じます。さらに、毎月欠かさず続けてきた定例企画会議は誇りに思います。会議の中では、若者達の意見を尊重し、前向きに事を進め、難儀なことは焼酎を飲み交わすことで笑い飛ばす。そして、我々の活動は、果たして住民の方々に本当に理解され、受け入れられているのが、「やっちく瓦版」なるもので、我々の活動を紹介し、ご意見を頂きながら、活動の検証をしていくよう努力しております。

～大隅の國やっちく松山藩  
藩主 坂元 正人さん



奉納武者行列

## 佐賀県佐賀市

### 【活動概要・効果】

#### ☆アジア最大規模のバルーンイベントによる地域活性化

○アジア最大規模の熱気球大会である佐賀インターナショナルバルーンフェスタを開催し、この大会にあわせて各種イベントを行い、会場と市街地を交流させる取り組みを行い、市街地の賑わいを図っている。

☆昭和59年にアジアで初のバルーンの国際大会としてスタートした「バルーンフェスタ」は、熱気球の世界選手権を開催するなど徐々に規模も拡大し、参加機数100機以上、観客動員数87万人以上の一大イベントとして定着している。イベントは民間団体の佐賀バルーンフェスタ組織委員会が主導となり、行政と協力しながら開催し、競技団体、地域住民、行政が一丸となってイベントを行っている。

☆シンボルロードのイルミネーションイベントや地域特産品の宣伝、周辺地域への経済活性化など、バルーンフェスタを中心として、多くのイベントを開催し、地域活性化をさらに促進している。



バルーンフェスタ オープニングパレード

#### 《人員確保での工夫・苦労》

バルーンフェスタの運営は、期間中のべ2千人を超えるボランティアに支えられており、毎年リピーターとして参加される方のほか、ボランティアの団体や企業、大学、短大、専門学校などへの呼びかけにより、たくさんの方のご協力をいただいています。

バルーンフェスタ・サテライトなどのイベントについては、街づくり組織「TMO佐賀」を中心に周辺商店街、地元百貨店等との協力や各種団体と連携しながら、市街地活性化のために取り組んでいます。

#### 《活動資金確保での工夫・苦労》

バルーン会場は河川敷を借用していることから、施設の設置解体などに多くの経費がかかるため、会場内で「環境整備協力金」「運営協力金」という名目で寄付金を集めるほか、協賛企業の募集などにより、自主財源の確保に努めています。また、バルーンフェスタ・サテライトについても、ほとんどを市の補助金で運営しているのが現状であり、今後、協賛企業を増やすことや関係者への負担を求める検討が必要と考えています。

サガ・ライトファンタジーは経費の大部分に市の補助金を充当していますが、一部の地元企業から協賛金いただき、リーフレットや横断幕に社名の掲載等を行っています。最終日恒例イベントとして、それらの企業からの協賛品を賞品とした抽選会を開催しており、たいへん好評を得ています。

#### 【現場の声】

バルーンフェスタ期間中は、毎年80万人以上の来場者があり、駐車場の確保や渋滞などの交通対策、交通規制への地元協力は大きな課題です。平成元年からJR九州の協力により会場内に臨時駅を設置し、平成15年には駅の恒久化工事を行い、観客の輸送に大きな力を発揮しています。また、学校や民間企業の協力を得て市内各所に臨時駐車場を確保し、会場へのシャトルバスを運行するなど交通渋滞の緩和に努めるほか、地元住民の協力により周辺地域の交通規制を実施しています。交通対策はまだまだ改善の必要がありますが、今後も地元や企業、関係官庁などと協力しながら改善に努めていきたいと考えています。

～佐賀市役所観光・文化課バルーン係



バルーンフェスタ サテライト会場（骨董市）

## 栃木県足利市

### 【活動概要・効果】

#### ☆歴史的街並み、文化を活かしたまちづくり

○歴史的地区環境整備街路事業が完成したことを受け、地元いくつかのまちづくり団体が設立され、石畳を利用したフリーマーケットや蔵を使用している作品展示などが行われている。

☆歴史的町並みを活かした各事業は周辺地区の歴史的雰囲気醸し出すだけでなく、地域住民のまちづくりに対する意識も大いに向上。「いしだたみの会（地元イベント「節分鎧年越」の雰囲気作りや警備支援等を実施）」、「茂右衛門の会（歴史的街並みを形成する「茂右衛門蔵」の保存活用）」、「奥の院通り研究会（フリーマーケットを定期的開催、市内外からの出店ある）」のほか、石畳の清掃、樹木の手入れの活動をしている団体など、数多くのまちづくり団体が活動。

☆足利学校の入場者数は受賞時に比べ2倍以上に増えるなど、足利を訪れる観光客が年々増加している。



歴史的町並み 大門通り

#### 《人員確保での工夫・苦勞》

交流人口を増やすために、地元の人が活躍できる場所の提供、参加意識を高めるための施策の展開により、参加者が増えた。また、観光客の声を聞くことができ、自分たちも学習し、次の活動につながっている。（いしだたみの会、茂右衛門蔵の会）

当初は商工会議所の会員になっている人が中心であったが、地元の自治会と連携が必要不可欠であり、活動のしやすさも考え自治会の組織を主体とした。その結果、活動するための場所の確保等地元の住民の協力を得やすくなった。（奥の院通り研究会）

#### 《活動資金確保での工夫・苦勞》

活動資金については、会員からの会費が主なものであり、活動資金確保は厳しいが、例えばイベントで展示会などを開催する場合は、地元の宝物や会員から借用し、経費節減に努めている。多額のお金を掛けるのではなく、会員の創意工夫と労力の提供により、継続的な活動を行っている。（いしだたみの会、茂右衛門蔵の会）

当初の2年間は、商工会議所から補助金をいただいたが、その後の収入は出店料のみ。また、じけんち市は雨天中止のため、安定した収入の確保が難しく、資金確保は厳しい。会員からの会費はないが、出店料と商工会議所、地元住民の協力により成り立っている。（奥の院通り研究会）

### 【現場の声】

平成2年の歴史的地区環境整備街路事業の完成により、この整備を活かしたまちづくり団体が次々と設立され、地域住民と行政が一体となり、足利学校・ばんな寺を中心とした新しいまちづくりを行っている。

会員は商業者と地元住民が半数ずつで組織され、商業者と住民とのコミュニケーションに苦勞したが、商業者が2倍汗をかくこと、及び茂右衛門蔵の会が組織されたことにより茂右衛門蔵を活動の拠点とすることなどで、地域コミュニティに一体感が生まれ、双方が協働して活動できるようになった。活動等は会員の負担とならないよう強制せず、会員の空き時間を利用している。（いしだたみの会、茂右衛門蔵の会）

3月から12月の第二日曜日に開催している「じけんち市」は出店者から出店料をいただきながら継続的に活動している。また、気軽に出店できるように、業種は特に指定せず、現在、商工会議所や地元の人々の協力もあり、50から60店舗の出店をしており、開催回数も140回を超えた。（奥の院通り研究会）

～足利市役所企画課



じけんち市